

## 1979 年度学会賞受賞作品・授賞理由

---

### ◆論文奨励賞「中心市街地に関する一連の研究」

深海 隆恒(東京工業大学社会工学科助教授)

〈選考理由〉

本研究は、大阪、横浜及び5つの地方中核都市を主たる対象として、それらの中心商業地域の整備にかかわる一連の基礎的検討課題について分析・検討を行い、商業地域再開発の学術的な指針をまとめあげたものである。

研究の特色とすべきところは、再開発の問題を地域的建築的な物的空間尺度と、地域経済・商店経営・消費者動向といった社会経済的尺度の両面から綿密に具体的事例にそくして体系的に検討を加えているところにある。

再開発に関する都市計画的な評価項目を商店街の育成や経営上の難点と常に結びつけながら検討を加えている点と、従来の再開発計画が、ややもすれば軽視しがちな、経営者や消費者の日常生活上の要求をふまえて再開発上の問題を分析している点は、再開発を実践行為として認識する論者の立場を明確にするものである。

さらに大量の調査資料を多元的かつ体系的に計量的技法を駆使しながらまとめあげ、ひとつひとつの結論を提示してゆく論者の研究上の力量は高く評価されてよい。商業経営と再開発を統合化して中心市街地の整備の方向性を与える、近年にない研究業績として当学会論文奨励賞に充分値するものとする。

### ◆論文奨励賞「都市構造と交通施設整備に関する一連の研究」

浅野 光行(建設省建築研究所第六研究部都市施設計画室長)

〈選考理由〉

従来、都市交通計画は、主として目標年次の土地利用を所与のものとして、それに

基づいて交通需要が推定され、与えられた土地利用から生ずる交通需要をいかに機能的に処理するかを主要な課題として、その手法が組み立てられてきている。

この一連の研究は、従来のパーソントリップ調査による一連の交通推定モデルを発展させ、交通施設整備が土地利用パターンに与える影響を考慮しつつ、現在から将来にかけて、動的に都市交通計画を考えるための手法を提案し、分析を行うとともに、その適用の可能性を示しており、今後の都市交通計画の進むべき方向として、たいへん示唆的であり、実用的な形にまとめたことは評価に値する。

ここに、同君の精力的な一連の研究に対し、将来への一層の発展をも期待して、日本都市計画学会論文奨励賞に値するものとする。

#### ◆設計賞「港北ニュータウンせせらぎ公園の計画・設計」

日本住宅公団 代表

春原 進(港北開発局事業計画課長)

支倉 幸二(本社宅地事業部事業計画第一課長)

《選考理由》

受賞の対象は大規模な新住宅市街地の建設にあたり、緑の計画を重要なテーマに採用し、閉鎖された緑の空間ではなく、開発地区内の自然環境の計画として計画設計されたものである。

基本技術としての既存樹林を尊重し、活用し、さらに緑と水の一体化された緑道をもって、開発地内の緑を系統的に計画し、先行的に事業化が実施された。

以上のことは、初期の計画の思想から、構想、設計、施工と一貫し、また実現のプロセスにもユニークなものが認められる。とかく制約条件の多い新開発市街地の外部空間の扱い方において、新たな設計と実現の可能性を示唆し、今後のこの種の空間設計に益するところが多いものと評価され、本学会の設計賞に値するものとする。